

2019年度 特別重点研究助成実施状況報告書

2020年 3月 31日

学長 殿

研究	所属・職	三遠南信地域連携研究センター・センター長
代表者	氏名	戸田 敏行

研究課題	スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究
研究の中心となる研究所	三遠南信地域連携研究センター

研究実施状況の概要

研究成果の公表、学内・学外機関による評価の実施、外部資金獲得への取り組み状況等についても記述してください。

本特別重点研究の拡大展開としていた、『越境地域マネジメント研究』を通じて縮減する社会に持続性を生み出す大学」をテーマとして、平成30年度私立大学研究ブランディング事業（ブランディング事業）に選定されたことから、2019年度はブランディング事業と一体的に本研究を実施した。また、2019年度より特別重点研究を辞して、ブランディング事業に研究体制を一体化することで、研究の効率化を図ることとした（資料1：2019年10月提出）。具体的な研究実施状況、研究成果の公表については、以下の通りである。

I. 研究実施状況

研究実施状況については、2019年度年次報告書（資料2）に概要を取り纏めている。

1. 全体事業の進捗

- ・全体会議としては総合会議を1回開催し、コア横断的な研究進捗を共有した。
- ・エリアマネジメントの事例調査として、首都圏を対象として、横浜市リビングラボ、大手町・丸の内・有楽町地区の視察を行った。

2. 個別研究の進捗（3 コアの研究体制）

①スーパー・メガリージョン（SMR）の国土的変容

1) 国土計画と変化要因では、ポストリニアでの東海道新幹線の活用アンケート調査、2) 海外事例では、中国国内の大都市圏調査、アジアツーリズムとガバナンスに関する調査、3) 広域行政の適応では、愛知県市町村におけるSMR影響アンケート調査、4) 中部産業構造の転換と企業立地では、自動車産業に関するデータ分析、5) 国土計画と大学機能では、三遠南信地域における本学OB3千名アンケート調査が実施された。

②都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開

1) エリアマネジメント計画では、企業・行政、名古屋駅周辺地区における地区協議会活動のヒアリング調査、地域実践教育の先行研究分析とWEBマガジンの実験、2) 名古屋駅周辺地域の空間構造ではGIS交通分析、3) 名古屋圏の企業持続性では、愛知県と沖縄との事業承継比較、4) 名古屋圏の広域構造では、重力モデルによるリニア/新幹線の利用推計と駅勢圏分析が実施された。

③大都市圏中山間地域の地域計画的展開

1) 三遠南信の広域構造では、三遠南信オープンデータライブラリーとの連携、2) 中山間地の機能では、売木村を対象とした農山村の存在意義に関するアンケート調査、3) 豊橋都心拠点エリアマネジメントでは、土地利用変化調査と愛着収集プロジェクトの準備、4) 豊橋・浜松の越境都市構造では、環状道路と産業集積に関するデータ分析、5) 広域合併都市の形成では、行政区再編問題に関する調査がなされた。

II. 研究成果の公表

・本センターで実施してきた越境地域政策フォーラム（2020年1月25日実施）において、本研究担当者が研究発表を行った。この成果は、本年度の本センター紀要に公開する予定である。

- ・2019 年度日本計画行政学会中部支部大会の公開シンポジウムとして、ささしま地区のエリアマネジメントを取り上げて実施した。
- ・個別研究では、本センター主催の「地域と防災シンポジウム（2019 年 10 月）」、中国深圳市主催、本センター共催の「防災国際シンポジウム（2019 年 8 月）」において発表された。
- ・個別の論文発表は、適時年次報告書に記載されている。